

大東・大須賀区域認定こども園化について 素案

1 これまでの検討の経緯

(1) 旧大東町における検討

①平成 11 年 2 月 15 日 大東町における幼児教育のあり方について

幼児教育検討委員会

将来的な展望としては、少子化の進捗を踏まえて小学校と共に保育所・幼稚園の統廃合も検討事項の 1 つとされたい、と提言。

②平成 12 年 3 月 大東町幼稚園教育振興計画

幼稚園における 3 歳児保育（平成 13 年度から実施）の推進や 1 学級の適正規模等を計画しているが、幼稚園の再編計画については検討していない。

③平成 13 年 4 月 保育園の民営化実施

(2) 旧大須賀町における検討

①平成 14 年 4 月 保育園の民営化実施

②平成 15 年 1 月 23 日 大須賀町幼児保育施設の適正規模について（提言）

幼保一元化の方向をめざして、の項目の中で以下のように提言

ア) 3・4・5 歳児の保育については、就学前保育として一体的に捉え、推進するよう検討されたい。

イ) 将来の一元化に向けて幼・保職員の合同研修や人事交流を図るよう検討されたい。

ウ) 将来は幼稚園も民営化を検討し、同一敷地内で、一体的な幼児保育ができるよう研究することが望ましい。

(3) 掛川市における検討

①平成 21～22 年度 南部地区乳幼児教育検討委員会

平成 22 年 9 月 掛川市南部地区乳幼児教育のあり方について 報告書

幼稚園が民営化できる場合、大東 2 園、大須賀 2 園に統合することを提言

②平成 23 年度 乳幼児教育振興計画策定委員会

平成 24 年 2 月 乳幼児教育振興計画策定に向けての提言

既存施設を 4 つの民営幼保園（大浜、城東、大淵、横須賀）に再編することを提言

適正規模は以下のとおり提言

ア 1 園あたり幼稚園児数は 90～240 人程度、保育園児数は 90～220 人程度とする。

イ 学級定員は、3 歳児 20 人、4・5 歳児 30 人が望ましい。

ウ 幼稚園においてはできるだけ同年齢複数学級とする。

エ 1 園の敷地面積は約 6,000～7,000 m²を基本とする。

③平成 24 年度 乳幼児教育策定庁内検討委員会・ワーキング

平成 25 年 1 月 乳幼児教育振興計画（案）策定の経過報告について 庁議

策定に向けての提言を基に、庁内検討委員会とワーキングで検討した内容を報告し、民営幼保園への再編案を基本として進めることを決定した。

④平成25～26年度 子ども・子育て会議

平成27年3月 子ども・子育て支援事業計画策定

「施策2-2 保育ニーズに応じた保育環境の整備 (3) 大東・大須賀区域の施設再編整備」項目において、平成22年、平成24年の提言にある民営幼保園の整備を基本とし、再編の検討を進める、地域の理解を得て実施計画を立てて、再編を推進していく旨を明記

今後の取り組み

ア幼保再編のための推進組織設置

イ再編実施計画の策定

2 大東・大須賀区域の現状

(1) 幼稚園の小規模化

大東区域 幼稚園定員680人 入園者295人 入園率43.4%

大須賀区域 幼稚園定員250人 入園者149人 入園率59.6%

(2) 保育園の定員不足

大東区域 保育園定員310人 入園者330人 入園率106.4%

大須賀区域 保育園定員210人 入園者200人 入園率95.2%

少子化により子どもの数は減少してきているが、保育園希望者は増加している。

(3) 施設の老朽化の進行

	建築年度	経過年数
土方幼稚園	昭和52年度	38年
佐束幼稚園	昭和60年度	30年
中幼稚園	昭和59年度	31年
大坂幼稚園	昭和50年度	40年
千浜幼稚園	昭和48年度	42年
睦浜幼稚園	昭和56年度	34年
横須賀幼稚園	昭和54年度	36年
大淵幼稚園	昭和52年度	38年
千浜保育園	昭和51年度	39年
大坂保育園	昭和50年度	40年
城東保育園	昭和52年度	38年
よこすか保育園	昭和56年度	34年
おおぶち保育園	平成17年度	10年

※おおぶち保育園以外の園の経過年数 平均36年

3 施設再編の目指す姿

(1) 幼稚園、保育園の別なく、乳幼児期の保育・教育を就学前教育として一元的に捉え、どの子にも一人ひとりの発達に即した質の高い保育・教育を提供する。

(2) 保育ニーズの増に対応した整備を行い、誰もが安心して子育てができる環境を整える。

(3) 未来を担う子どもたちを安全・安心な施設で保育する。

(4) 行政が保育・教育に責任を持ち、運営に関しては民間の力を最大限利用するとう、市民協働による園経営を行う。

(5) 「教育・文化日本一」「健康・子育て日本一」にふさわしい環境整備を図る。

4 施設再編の素案

(1) 再編の概要

掛川区域で実施してきた8園化構想の成果と課題を踏まえ（別紙1参照）、大東大須賀区域においては、既存の公立幼稚園8園と私立保育園5園を、民営の認定こども園5園に再編することで推進する。（仮称）5園化構想

①大東区域 認定こども園3

ア大浜地区

大坂幼稚園 → （仮称）大坂認定こども園に再編
睦浜幼稚園 参考 現在の園児数251人
大坂保育園

千浜幼稚園 → （仮称）千浜認定こども園に再編
千浜保育園 参考 現在の園児数116人

イ城東地区

土方幼稚園 → （仮称）城東認定こども園に再編
佐束幼稚園 参考 現在の園児数258人
中幼稚園
城東保育園

②大須賀区域 認定こども園2

ア横須賀幼稚園 → （仮称）横須賀認定こども園に再編
よこすか保育園 参考 現在の園児数188人

イ大淵幼稚園 → （仮称）大淵認定こども園に再編
おおぶち保育園 参考 現在の園児数161人

(2) 再編の考え方

平成24年2月の「乳幼児教育振興計画策定に向けての提言」で示された4つの民営幼保園への再編案を検討の基本とした。

中学校区学園化構想との連携を考え、中学校区に最低1つの認定こども園を整備する。

大浜地区については、提言にあるように既存の3幼稚園と2保育園全てを統合すると、360人を超える大規模園となる。

現在、掛川市内で最も大きい幼保園は定員320人である。この規模においても、要支援児、外国人園児増加への対応や、行事場所・登園降園の駐車場確保など、大規模園ならではの課題が指摘されている。

これ以上の規模になると、園児数が多すぎて運営が困難になり、子ども一人ひとりに合わせたきめ細やかな保育に支障を来すと考えられる。

また、すべての施設について老朽化が進行し、改修では対応できない状況である。

以上のことから、千浜幼稚園と千浜保育園を統合した（仮称）千浜認定こども園を追加し、質の高い保育・教育の提供を確保する。

城東地区、横須賀地区、大淵地区については、提言のとおり、地区内の幼稚園・保育園を認定こども園に再編する。

以上の5園に再編した場合、大東・大須賀区域において、幼保の別なく質の高い教育・保育が受けられる環境が整うことになる。

3歳以上児における同年齢複数学級も実現し、コミュニケーション力、人とかかわる力、豊かな人間性や社会性を身につける機会が増加する。

また、地区の小中学校との連携も十分可能な形で幼保一元化が実現すると考える。

さらに、教育委員会では、学校の適正配置、小中一貫校の検討が進められようとしているため、その取り組みとも連携し、保幼小中一貫教育を深めることができる。

(3) 再編スケジュール

平成27年度 ①大東大須賀区域認定こども園化推進委員会、庁内委員会・庁内ワーキングを設置し、再編実施計画を策定する。

平成28年度 ①再編実施計画を進める。
②1園目再編のための地域推進組織設置、地域における検討を行う。

平成29年度以降
①2園目以降の再編のための地域推進組織設置、地域における検討を行う。
②認定こども園の実施設計を行う。
③認定こども園の建設工事を行う。
※今後策定する再編実施計画に従い、順次、地域における検討、実施設計、建設工事を実施する。

5 今後の課題

地域住民・保護者の理解をどのように得ていくか。

課題解決に向けて

広報誌や地域説明会などによる地域への周知、地域推進組織による地域主体の検討などにより、地域と連携して進めていく。